

## 前サルゴン期シュメール都市国家ラガシュにおける 菜園としての SAR (=kiri<sub>6</sub>) の態様について

山 本 茂

はじめに

前サルゴン期シュメール都市国家ラガシュにおける園 (SAR=kiri<sub>6</sub>) と「玉葱畠」ki-sum-ma との関係についての先学の言及は、かなり表面的・一面的なものであった。たとえば A. Deimel は「当時、野菜は稀には園 Gärten (šar) の中で、普通は耕地 Feld (gan<sub>2</sub>) において、それも特にそのために手入れされた区割地、すなわち玉葱畠 'Zwiebelort' (ki-sum-ma) と呼ばれる区割地 (Stücken) において、栽培された」と規定した [Deimel, 1931: 88f.]。また A. Schneider は「園 Gärten (sar) は穀物耕作から完全に分離している。園が話に出ているならば、此の語は常に樹園の意味において理解されている」こと [A. Schneider, 1920: 49]、さらに「かなりの量に達し、また穀物と同様に大耕地で栽培された野菜種類の中では、様々の玉葱・にんにく種類が他を凌駕しており、これらは特に大量に植えられたに違いない」[Ibid.: 47] ことを主張している。特にシュナイダーにあっては、耕地内の野菜畠としての ki-sum-ma と (果) 樹園としての kiri<sub>6</sub> が截然と分離されていた。他方、野菜類は通常、穀物耕地中の ki-sum-ma において、稀に園において栽培されていたとするダイメルの指摘に何らかの異議を唱え、より精密に菜園としての園の研究を行うには困難な事情があった。

M. Lambert は野菜栽培関係記録中の SAR を kiri<sub>6</sub> と読み、これを jardin と解しながら、これと玉葱畠 oignonnière と訳した ki-sum-ma との関係については何の言及も行っていない [M. Lambert, 1975: 44]。J. Bauer も SAR を kiri<sub>6</sub> と読み、Garten, Baumgarten 「園、樹園」と解し、樹園としての kiri<sub>6</sub> と野菜畠 Ort der allgemeiner Gemüsearten としたの ki-sum-ma とを語義的に厳しく分離したまま、両者の関係の考察には一歩もふみこまなかった。バウアーは、一般耕地の中に菜園としての kiri<sub>6</sub> という区割が存在することにまったく注意を払わなかった。<sup>1)</sup>

最近の J. Bottéro の論稿においても、セム語の語源研究の成果に基いて改ためてシュ

1) BAUER, 1970, No. 1 (=Fö 100) への前書注および I 2 への注、さらに No. 93 (=Fö 108) I 1 への注参照。

メール語の *sum* がにんにく *Knoblauch*, *ail* を意味する蓋然性を強調し, *sum* が他のねぎ属や豆類, 料理用野菜と共に, 時には菜園 *jardins potagers*, 最もしばしば耕地において, むしろ専門家によって栽培されていたことが, 古バビロニアやマリの文書を例証として指摘されるに留まった [BOTTÉRO, 1980:39f.]。

しかし前サルゴン期シュメール都市国家ラガシュにおいて, 野菜栽培地は, 耕地内の *ki-sum-ma* の他, 様々な場所および態様において設けられた菜園 *SAR=kiri*<sup>6</sup> としても実際に存在したし, その独自の意義にも無視し得ないものがある。本稿では, 前稿における準備的作業 [山本 1984:79-87] によって, *SAR* の複雑多様な用法の中で確実に識別された, 菜園としての *kiri*<sup>6</sup> の幾つかの特質を, 此の複雑な態様において *ki-sum-ma* と対比しつつ具体的に明かにし, 此の古い時代の支配者妃を首長とする組織における野菜栽培の実態の解明に資したいと考える。

### 1 ‘*kiri*<sup>6</sup>-*bi*’によって導かれる面積表現の含意するもの

通常の耕地内の野菜栽培地 *ki-sum-ma* に関する区割・定植記録, すなわち *mu-sur* 記録中でも, 或る程度以上の規模の記録においては, 定植量・作物種類・畝 (*absin*) 数・栽培面積が記載されるのが普通であった<sup>2)</sup>。そして此の栽培面積記載に際しては, *gán-bi* (*x iku*) *Y sar* の形が定式であった。此の種の定型的 *mu-sur* 記録において, 面積数を導くのに *SAR-bi* と書かれることは決してなかった。

*ki-sum-ma* の収穫記録においても, DP 379 (II 1, III 1); DP 378 (I 2); VAT 4742 (I, II) [DEIMEL, 1925 (b):6]; DP 388 (II 2)<sup>3)</sup>; DP 389 (I 3); VAT 4654 (V) [山本 1984:95] の6記録において, 面積数を挙げるのに *gán-bi* の定式を用いている。VAT 4742では *absin* の数も挙げられている。*ki-sum-ma* に関する収穫記録にも *SAR-bi* による面積記載は決して現われないのである。

しかしながら収穫記録の中には, 第I表にその詳細を表象した8個の記録のように, 収穫物の数量と作物名の後に栽培面積を挙げる際, 面積数が *SAR (=kiri*<sup>6</sup>*)* *-bi* によって導かれる場合がある。此の様な, 同じ野菜類の収穫記録における *gán-bi* と *kiri*<sup>6</sup> *-bi* との使い分けの理由は何であろうか。

第I表の8記録に共通して顕著な特徴は, 第一に *ki-sum-ma* の文字がどの記録にも欠けていること, 第二に畝 (*absin*) の数の記載がないこと, の二つの事実である。此の

2) *ki-sum-ma* に関する大規模記録については, 山本前稿 [1984], 90-91: Nik I 47, および94: Nik I 46が代表的な例を提供する。

3) 山本 1984:81に史料(1)として翻字が与えられている。

ことを念頭において個々の記録を仔細に検討してみよう。

(1) DP 399は、除外される玉葱 (sum-pad-du: I 1, 4) を、恐らく再度、区劃・定植するために (sur-dè: III 1), いわゆる「庭師」nu-kiriš 職のアンアムら (II 2-3, I 3-4) に与えた (e-ne-sum: III 2) 記録であり, kiriš-bi によって導かれる栽培面積が2つ記されている。栽培場所名 (第I表 Location 欄参照) は欠如している。特殊な記録である<sup>4)</sup>

(2) HSS 3, 51の最も注目すべき点は、Location が ù-udu-šè Lugal-ezem sangu なる特殊な場所、おそらく灌漑水路 ù [前田 1976: 5 参照] の周辺であるという点である。(1), (2)に共通な点として、それぞれの kiriš-bi… (sar) の栽培責任者が明記され、しかもそれら2人ずつの責任者が同じ人物であることが挙げられる。

(4) DP 370は、kiriš-bi によって導かれる面積記載が、特殊な場所における菜園としての kiriš の設置そのものを意味している場合があることを、明確に示す。

此の記録では、678束のソーサの亜麻 gu-MUŠ.EREN<sup>ki</sup> を収穫した80サルの栽培地の Location は、ambar<sup>ki</sup> (II 2) 「沼地」, 「湿地」であった。栽培—収穫場所が ambar<sup>ki</sup> そのものであって、「沼地の耕地」gán-ambar<sup>5)</sup> でないことが注目されねばならない。耕地の中ではなく、「沼地」ambar<sup>ki</sup> の一部に kiriš 「園」が設置されたことを此の記録は示している。

考察をここまで進めてみれば、上に指摘した、ki-sum-ma の語と àbsin 数の記載の欠如という二つの共通事実に照らして、kiriš-bi に導かれる面積記載を有する収穫記録は、耕地内の ki-sum-ma とは異なる、特別な場所に設置された菜園としての kiriš における sum 類の栽培・収穫を示唆していると断じてよいであろう。

(3) DP 371および(8)DP 386にあつては、栽培場所が、穀物栽培を主とする gán 「耕地」である点に特色がある。しかも DP 371の耕地「(支配者) エンシの KUR<sup>6)</sup> である小ギシュアン耕地」(III 4-IV 1) はかなり特殊な耕地であつて、ambar<sup>ki</sup> と共に灌漑水路工事の数の多いことから、ambar<sup>ki</sup> と相似た沼澤地にある耕地であることは確実である。さらに此の地に関しては、gán を伴わない e-GIŠ.AN-tur<sup>6)</sup> や GIŠ.AN-tur [cf. DP 372 I 4] において亜麻 gu が収穫された記録があつて、此の耕地が排水事業による耕地化の進行中である、特殊な耕地であつたことは明かである。

4) この特殊記録 DP 399において sum-GU<sup>4)</sup> が収穫時の計量法ではなく、すでに区劃・定植時の計量法ではかられている点については第I表(7)VAT 4667の項において触れられる。

5) 耕地名 gán-ambar は絶対に gán-ambar<sup>ki</sup> とは書かれない。

6) Cf. VAT 4719 IV (Lugalanda\*\* II) [DEIMEL, 1923-24: 289]。

第 I 表

Text Number	Products	'kiri <sub>6</sub> -bi'	Additions
(1) DP 399 (L.**.IV)	1/4. 1 kúr sum pad-du	kiri <sub>6</sub> -bi 25 (sar)	Úr-mud sangu-GAR
	3/4 sum-GU<pad>-du	kiri <sub>6</sub> -bi 70 (sar)	AN-a-mu nu-kiri <sub>6</sub>
(2) HSS 3,51(L.V)	360 gu-lá sum-GU <sub>4</sub>	kiri <sub>6</sub> -bi 60 (sar)	AN-a-mu
	40 gu-lá sum-GU <sub>4</sub>	kiri <sub>6</sub> -bi 25 (sar)	Úr-mud sangu-GAR
(3) DP 371(L.V)	626 sa gu	kiri <sub>6</sub> -bi 74 (sar)	gu-KA-a-am <sub>6</sub>
	52 sa gu	kiri <sub>6</sub> -bi 6 (sar) -am <sub>6</sub>	
	šu-n. 678 sa gu, gu, gu- MÛŠ. EREN <sup>ki</sup>	—	—
(4) DP 370(L.VI)	678 sa gu-MÛŠ. EREN <sup>ki</sup> ( I 1 )	kiri <sub>6</sub> -bi 80 (sar) -am <sub>6</sub> ( I 2 )	—
(5) DP 381(L.VII)	230 gu-lá sum-GU <sub>4</sub>	kiri <sub>6</sub> -bi 60 (sar)	[itu-gur <sub>x</sub> -ku <sub>5</sub> -du]
	10 gu-lá sum-šag <sub>5</sub>		
	16 gu-lá sum-kúm-ma	—	
	68 sa si-lum-sar		
(6) DP 384(L.VII)	200 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -sar-suḥ <sub>5</sub> -ḫa	kiri <sub>6</sub> -bi 60 (sar)	súm-u-rum Bár-nam-tar- ra dam Lugal-an-da énsi Lagaš <sup>ki</sup> -ka ( III 1 - 5 )
	133 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -ús-bi	-am <sub>6</sub>	
	31 gu-lá sum-šag <sub>5</sub>		
	šu-n. 364 gu-lá sum-tur-mah <sub>5</sub> -ba		
	250 si <sub>4</sub> -lum	kiri <sub>6</sub> -bi 40 (sar)	
(7) VAT 4667( ? - ? )	189 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -sar-suḥ <sub>5</sub> -ḫa	kiri <sub>6</sub> -bi 60 (sar)	—
	73 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -ús-bi		
	300 sa si-lum	kiri <sub>6</sub> -bi 25 (sar)	
	1 g.s.g. si-lum sag-bi-ša <sub>6</sub> -ga		
(8) DP 386(U.1.I)	33 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -ša <sub>6</sub> -ga	kiri <sub>6</sub> -bi 10(sar)-am <sub>6</sub>	sum-kiri <sub>6</sub> -sur-ra
	3 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -kúm-ma		Ur-nu nu-kiri <sub>6</sub> -ka- kam ( II 1 - 3 )

略号 E.=En-ig-gal; g.s.g.=gur-sag-gál; l=lugal; L.=Lugalanda; n.b.=nu-bànda;

記号 ] …] / [… [/左/右/隣欄に位置したフレーズを右/左/へ各欄の主題の都合上移動させたもの

\*\* 書かれていない治世者名を推定したことを示す。

Location	Conduct 1	Conduct 2
—	E.n.-b. sur-dè ( III 1 )	e-ne-sum
ú-udu-šè Lugal-ezem sangu-ta ( II 3 - 5 )	E. n.-b. mu-ba-al	é-ki-šál-la-ka ba-túm
gán-GIŠ. AN-tur KUR <sub>6</sub> énsi-ka-t[a]	] E. n.-b.] mu-sig <sub>7</sub>	—
ambar <sup>ki</sup> -ta ( II 2 )	] E. n.-b.] mu-sig <sub>7</sub> ( I 3 - II 1, II 3 )	En-nanga-ré lú-é-níg-ka- ra e-na-šid ( II 4 - 6 )
kiri <sub>6</sub> -gán-gír-ka-ta ( II 3 )	E. n.-b. ma-ba-al	é-ki-šál-la-ka ì-túm
kiri <sub>6</sub> -gán-gír-ka-ta ( III 8 )	] AN-a-mu nu- kiri <sub>6</sub> -ke <sub>1</sub> ] mu-ba-al ( III 6 - 7; IV 1 )	En-ig-gal nu-bànda é-níg- ga-ra ì-túm
—	AN-a-mu nu-kiri <sub>6</sub> - ke <sub>1</sub> mu-túm	En-ig-gal nu-bànda é-é-bar- ‘Bil-àga-mes-ka ì-[túm]
gán-GIŠ. AN-ambar <sup>ki</sup> -KUR <sub>6</sub> -énsi-ka-ta ( II 6 - 7 )	] En-ig-gal nu- bànda ] mu-ba-al	é-ki-šál-la-ka ì-túm

U. = UruKAgina

(8) DP 386に記録された収穫場所は gán-GIŠ.AN-ambar<sup>6</sup> KUR<sup>6</sup>-énsi-ka (II 6-7) であって、(3)の gán-GIŠ.AN-tur KUR<sup>6</sup>-énsi-ka と同一、もしくはそれに近接した類似条件下の耕地である。しかも此の記録では kiri<sup>6</sup>-bi 10 (sar) -am<sup>6</sup> の後に、sum kiri<sup>6</sup>-sur-ra Ur-nu nu-kiri<sup>6</sup>-ka-kam (II 1-3) なる注記が続き、2種類の sum-GU<sup>1</sup> が収穫された 10 sar の栽培地が、「(果)樹・野菜栽培者」ウルヌの「区割された園」であることが明記される。DP 371の kiri<sup>6</sup>-bi …の後には補注はないが、DP 386の例に鑑みて耕地内の kiri<sup>6</sup> が問題になっていると判断される。

(5) DP 381, (6) DP 384の sum 類栽培地は共に「ギル耕地の園」(II 3; II 8) であり、DP 384では収穫責任者が nu-kiri<sup>6</sup> 職のアンアムであることが明記されており (III 6-IV 1), 此の kiri<sup>6</sup> の栽培責任者はアンアム自身か、その配下の nu-kiri<sup>6</sup> であると断定することができる。DP 381はそのような知識を全く与えないが、此の記録において問題となっている kiri<sup>6</sup>-bi の責任者もまた nu-kiri<sup>6</sup> 職と考えて誤りないであろう。

(7) VAT 4667 [DEIMEL 1925(b):22] は Location を欠く点で(1)DP 399と共通する。しかし(7)が純然たる収穫記録で、収穫物が gu-lá「括り」で数えられているのに対して、(1)では新たに区割・定植するために「除外される sum」sum-pad-du が、すでに区割・定植される時の量り方である gur-sag-gál で計量されている点が注目される<sup>7)</sup>。他方(1)では栽培責任者の名が記されていたのに対し、(7)では補記は欠けているものの、収穫物搬入責任者として AN-a-mu nu-kiri<sup>6</sup> の名が明記される (Conduct I 欄参照)。書式は全く別であるが、kiri<sup>6</sup> の栽培・収穫責任者の名を明記する点は共通している。

以上の検討によって、kiri<sup>6</sup>-bi によって導かれる面積表現を有する、sum 類を中心とする収穫記録の背後に、ki-sum-ma とは別の野菜類の栽培場所として、一搬耕地の内外に kiri<sup>6</sup> が設置され、その主たる栽培・収穫担当者が「(果)樹栽培者」nu-kiri<sup>6</sup> であった事実が検出されたと考える。

## 2 果樹園としての kiri<sup>6</sup> に付属した野菜栽培地

本稿冒頭にも触れたように、kiri<sup>6</sup> への言及がなされるのは、主として果樹栽培ないし材木に関する記録においてであった。しかしこれら木材・果実関係記録において、独立した園の名が灌漑施設名その他の地理的個有名詞によって明記されることは極めて稀であった。

7) DP 399における計量法の移行は、除外された sum (-GU<sup>1</sup>) が新たに区割するために与えられた時点において、すでに収穫時の状態から種を採取した状態へと移行していたことを示すと考えられる。

ただ、果実の収穫に関して一つだけ、しかも頻繁に名前を挙げられる果樹園があった。その名を「ズビ河の園」kiri<sup>8</sup>-id-zubi-ka<sup>8)</sup>と言う。此の園において、なつめ椰子やいちじくや林檎(?)が、アンアム、エンキサルシなどの nu-kiri<sup>8</sup> によって栽培・収穫されていたことは、Nik I 145 II 3-4 (L.-II) [POWELL, 1981:138], F8 155 III 2-3 (L.-II), VAT 4613 II (L.-V) [DEIMEL, 1925(a):47], DP 105 I 5-II 1 (U.I.I), TSA 42 I 5-6 (U.I. II) などの果実収穫記録によって知ることが出来る。

此の果樹園 kiri<sup>8</sup>-id-zubi-ka (「よどみなく流れる河の園」の意)は、支配者妃ないしバウ女神を首長とする組織にあって最も重要な果樹園であったことは、上記五つの果実収穫・納入記録において、常に最初に記録されていたことから考えて、疑いのない事実である。此の果実収穫記録によって確認される唯一の独立した地名の附せられた果樹園である kiri<sup>8</sup>-id-zubi-ka に、収穫されたばかりの sum-/GU<sub>4</sub>/Dilmun/šag<sup>9</sup> が運ばれて「(置いて)あります」(mu-gál)と明記された記録 DP 405がある<sup>9)</sup>。

DP 405の記述に徴すれば、此の独立した kiri<sup>8</sup> において種が採られ、新しい栽培が始められたことは確実である。しかも此の記録において、ki-sum-ma での sum 類の収穫作業の責任者は管理者エニツガルであり、彼が収穫物を kiri<sup>8</sup>-id-zubi-ka に引渡すに際してその収量を数えた相手は、此の園の果実記録にしばしば登場する nu-kiri<sup>8</sup> 職のアンアムであった (Col. III 1-6)。

木材伐採および果実収穫・届出記録には現われないが、野菜栽培関係記録中に独立した園として取扱われる名として、kiri<sup>8</sup>-dun-ga-ni-mu-gi-na<sup>10)</sup>がある。此の園における亜麻の収穫記録 DP 374 [山本 1984:83(4)] は、'x sar (-sur-ra):人名'を8項も含む特異な亜麻収穫記録であって、此の園における亜麻 gu の栽培・収穫の特殊な姿を立証するものである。DP 374においても kiri<sup>8</sup>-bi 関係記録同様、畝 àbsin の数は書かれない。

kiri<sup>8</sup>-id-zubi-ka のように耕地から独立した園は、おそらく改修された灌漑用の河川ないし人工水路に沿った、特に灌漑・排水の便のよい場所に設けられたと考えられるが、

8) 此の果樹園名を構成要素とする耕地名 gán-Û-SAR-id-zubi-ka がある。DP 573 I 4 によれば、それは面積 6 iku の小耕地であった。

9) Cf. DP 405 III 1-IV 2。此のテキストについては本稿第4節で再度触れる際に全文の翻字が与えられる。

10) J.Bauer は dug<sub>4</sub>-ga-né-mu-gi-na を「彼の言葉は確かである」という意味を持つフレーズと解釈し、地名ではなく人名であると解釈している [BAUER 1970:65, 271f., 546]。Cf. F8 140 I 2。

個有名詞の附せられた園の中で野菜畠がどの様に設置されたかに就いては、記録は何も語らない。

けれども、地名の付せられない果樹園としての *kiri*<sup>6</sup> に、野菜畠が附設される具体的な姿に関しては、DP 610がヒントを与えてくれる。

DP 610: UruKAgina?—? (≥ 2) [DE LA FUIJE 1915: 130f.; DEIMEL, 1924(a): 29f.]

<sup>1</sup>20 (GAR.DU) ús-sá, <sup>2</sup>1/2 (éš) 3 gi sag-sá, <sup>3</sup> [g] án-bi 1 iku 30 sar

<sup>4</sup>kiri<sup>6</sup>-gub-ba im-ma-kam

<sup>5</sup>20 (GAR.DU) ús-sá, <sup>6</sup> 6 gi kuš-3 sag-sá, <sup>11</sup>gán-bi 1/2 iku 15 sar

<sup>2</sup>ki-gál, giš nu-gub-ba-am<sup>6</sup>

<sup>3</sup>kiri<sup>6</sup> AN-a-mu

<sup>4</sup>20 (GAR.DU) 4 gi ús-sá, <sup>5</sup>1/2(éš) 7 gi kùš-3 sag-sá, <sup>6</sup>gán-bi 2 iku lá 7 1/2 sar<sup>11</sup>

<sup>1</sup>ki-gál-am<sup>6</sup> <sup>2</sup>kiri<sup>6</sup> É-tu

<sup>3</sup>En-ig-gal <sup>4</sup>nu-bàn[da] <sup>5</sup>mu-[gíd]. 2 [+?]

<sup>11</sup>1 gi sag AN-a-mu

<sup>2</sup> 1 gi KUM. KU-šè

<sup>3</sup> 1 gi En-kisal-si

<sup>4</sup> 1 gi kùš-1 Ur-ki

<sup>5</sup>1 -dabs-ba-am<sup>6</sup>

<sup>6</sup> 1 gi. kùš-2 AN-a-mu  
<sup>11</sup> 1 gi KUM. KU-šè } zag-kiri<sup>6</sup>-1 -kam

<sup>2</sup> 1 gi. kùš-2 šu-be 1 É-tu

<sup>3</sup> 1 gi Lugal-é-ni-šè

<sup>4</sup>1 -dabs-ba-am<sup>6</sup>

*kiri*<sup>6</sup> の検地記録<sup>11)</sup> という珍しい性格を持った此のDP 610の3 コラムから成る表面は、三筆の *kiri*<sup>6</sup> の検地記録である。第1筆は縦20ガルドウ<sup>12)</sup>、横5ガルドウ3ギの長方形、その面積は1 iku 30 sar<sup>13)</sup> (I 1-3) で、それは「去年の(木)が立っている園 (I 4)」

11) 穀物耕地の検地記録については、中原 1963, 山本 1974, 1977, および DAIMEL 1924(b) 参照。

12) 長さの単位: 1 éš=10 GAR.DU, 1 GAR.DU=2 gi (=5.94m), 1 gi=6 kùš, 1 kùš=2 šu-be (≅50cm), 1 šu-be=15 šu-si, 1 šu-dù-a=1/3 kùš=10šu-si (≅17cm) Cf. De la Fuije 1915: 20.

13) 面積単位: 1 sar=1 GAR.DU<sup>2</sup> (≅35.3m<sup>2</sup>), 1 iku=100 sar=1 éš<sup>2</sup> (≅35.3a), 1 bùr=18 iku(≅6.35 ha), Cf. DE LA FUIJE 1915: 20; Dimel 1924: 36.



である。第2筆は縦が第1筆と同じ20, 横は $3\frac{1}{4}$ ガルドゥ, その面積は65 sarである。此の第2筆は ki-gál giš nu-gub-ba-am<sup>6</sup> 「堅い(力のある?) 土地, 木は植えられていない」(II 2) と注される。以上2筆はアンアムの園(II 3)である。

第3筆の縦は20 GAR.DU 4 gi (約130.7m), 横の長さは5 GAR.DU 7 gi kùš-3 = 8.75 GAR.DU, 記載面積は2 iku マイナス  $7\frac{1}{2}$  sar = 1 iku 92  $\frac{1}{2}$  sar (約67.9アール), 第2筆同様 ki-gál である(III 1)。第3筆は「É-tu の園」(III 2)である。

これら3筆の kiriš は、「去年の木が立っている園」, 「ki-gál, 木が植えられていない」という注記によって, 果樹園であることは明かである。表面末尾には検地行為も書き込まれ(III 3-5), 治世年も付記されている。果樹園の検地記録としては, いちおう表面3欄の記述を以って完了している。

したがって, 裏面の2欄にわたる8項の, 小面積ずつの分担(dabs-ba-am<sup>6</sup>: IV 5, V 4)に就いての追加記事は, 菜園の分担を記録したものと判断するのが自然であろう。実際, 裏面第1項(IV 1): 1 gi sag AN-a-mu 「幅1ギ: アンアム」以下, 残りの7項とも分担地片の幅だけが記録されているが, その数字は8項中5項が1 gi (約2.97m), 他も1 gi kùš-1/2/, 1 gi kùš-2 šu-be 1 と, すべて1.5gi 以下と, 非常に限られたものとなっている。合計も  $8\frac{3}{4}$ gi に過ぎない。長さは記されていないが, 表面の kiriš 本体の基本的な長さ20 GAR.DU に等しいと仮定すると, 裏面記載の合計面積は87.5 sar, 表面の第2筆よりは少し大きい, 1・3筆の面積の半分以下の大きさとなる。長さ20 GAR.DU, 幅1 gi の面積は10 sar であるから, 各地片は幾畝かの野菜栽培が行われる面積となる<sup>14)</sup>。

裏面8項中に姿を見せる担当者は6名である。最初の担当者4人(アンアム, クムクシュ, エンキサルシ, ウルキ)の後と, 最後の2人(エトゥ, ルガルエニシュ)と担当に関する項目の後とに現われる1 dabs-ba-am<sup>6</sup> 「1つ引受けたものである」(IV 5, V 4)の中の-dabs は, 野菜関係記録中初出の VAT 4476<sup>15)</sup>において, 実際の栽培担当者ニムギルエシュドゥが「担当した」i-dabs と書かれた文中の-dabs と同じ用語法である。

中間の2項(IV 6-V 1)に現われる2箇の人名は最初の1-dabs-ba-am<sup>6</sup> で括られた4人名中の初めの2人と同一であり, 2箇目の人名 KUM.KU-šè の後に附せられた zag kiriš-1-kam 「1つ目の kiriš の傍(の)である」(V 1) という注記が示すように, 裏

14) 10 sar という面積 (=353m<sup>2</sup>) は, 大規模 mu-sur 記録中の<sup>3</sup>4/24 (gur-sag-gál) sum-GU+2-gar-sar, <sup>4</sup>absin-bi 4, <sup>5</sup>gán-bi 10 sar (DP 408 VIII 3-5) のごとき記載を直ちに想起させる。

15) 山本 1984:90, 史料(14)参照。ただし VAT 4476は absin(畝)数をかぞえ, 耕地名を挙げてゐる故に, 事実上の ki-sum-ma に就いての記録の初出であることを知らねばならない。

面の8箇の小地片もまたすべて *kiri*<sup>6</sup> であり、6人中2人だけが2区割を担当したのである。<sup>16)</sup>

6人の肩書きは示されないが、1人を除いて *nu-kiri*<sup>6</sup> 職であることが確認される者ばかりであって、残る1人の *KUM.KU-sè* も同じ *nu-kiri*<sup>6</sup> である蓋然性は極めて高い。担当者がすべて *nu-kiri*<sup>6</sup> であったと考えられる点に、果樹園に附属する菜園の特殊性がうかがわれる。

DP 610の表面に測地結果と分担責任者が記録された果樹園3筆は計約4 *iku* に達する規模を有するが、地理的個有名詞は無い。従って此の果樹園が独立した *kiri*<sup>6</sup> であったとは断定できないが、独立した果樹栽培中心の *kiri*<sup>6</sup> の態様も此の記録と類似したものであったと想定される。

実際、独立した園と思われる *kiri*<sup>6</sup>-*duu-ga* [-*ni-m*] *u-gi-na* と特殊な地区 *GIŠ.AN-tur*, およびウギグ耕地 *gán-ù-gig* という、夫々性質の異なる場所で収穫された亜麻の量をならべて記録し、それを合計した数字を明記したテキスト DP 620 (*UruKAgina\*\**, *lugal II*) が存在する。収穫されてしまえば、*kiri*<sup>6</sup> の亜麻も *gán* の亜麻も同じ取扱いを受けたのである。

以上の考察によって、独立した名前が与えられるにせよ、分担 *nu-kiri*<sup>6</sup> 職の名だけしか挙げられない場合にせよ、果樹園としての *kiri*<sup>6</sup> に、菜園としての *kiri*<sup>6</sup> が附設される場合があることが明らかにされた。ここに我々は、先学がその存在や態様に対してほとんど注意を払わなかった果樹園としての *kiri*<sup>6</sup> に関して、それが時に灌漑水路の近傍などの恵まれた場所に設置され、それに小面積の菜園が附設される場合があることを確認し得たわけである。此の独立した *kiri*<sup>6</sup> の場合にも、畝数が数えられなかったことを改ためて確認しておきたい。

### 3 穀物耕地 *gán*…内の *kiri*<sup>6</sup> の三つの特色—*ki-sum-ma* と対比して—

独立した *kiri*<sup>6</sup> が、*kiri*<sup>6</sup>-*íd-zubi-ka* の様に水の特に豊富に得られる場所に設けられる場合があったことは、*kiri*<sup>6</sup> にとって、普通の *gán* 以上に水の供給が決定的に重要であったことを物語る。もちろん耕地に対しても、人工灌漑水路がしばしば建設・補修されたことは多くの *e-dù-a* 記録の証明する通りである。それは時にはかなりの規模に達することがあった。<sup>17)</sup> しかし穀物耕地への人工灌漑水路ばかりでなく、それに加えて、

16) DEIMEL 1924: 30における DP 610の翻字の中で、2度目の *1-dabš-ba-amš* を *É-tu* 以下の2人だけでなく、2度目の *AN-a-mu* および *KUM.KU-sè* を含む4人にかかわる注記と解したのは誤りである。

耕地内に設けられた kiri<sup>6</sup> に対しても、小規模ながら kiri<sup>6</sup> 専用の水路 (e, paš, DIŠ-sù) が設けられたことが実証される。これに反して gán 内の ki-sum-ma に対しては、そのような特別な灌漑用水路が開削された例は皆無である。此の事こそ、同じ様に耕地内に、玉葱・にんにく類を中心とする野菜栽培地として特別に設けられた ki-sum-ma と kiri<sup>6</sup> との第1の顕著な相違点、耕地内 kiri<sup>6</sup> の第1重要な特色であろう。

DP 655 Lugalanda\*\*-VI [DEIMEL 1924(b): 10; cf. BAUER 1970: 51]

<sup>1</sup> 2 éš 8 gi kùš-4 šu-dù-a 2 e-dù-a-kiri<sup>6</sup> <sup>2</sup>gala-mah

<sup>3</sup> 2 éš kùš-4 Ur-tar

<sup>4</sup> 2 éš 5 gi kùš-4 šu-dù-a 2 <sup>11</sup>é-mí

<sup>2</sup> 5 gi šu-dù-a 2 paš-sír

<sup>3</sup> 2 éš kùš-4 <sup>4</sup>Ur-igi

<sup>5</sup> 1/2 éš 2 gi kùš-3 <sup>111</sup>Lugal-é-da <sup>2</sup>gúda

<sup>3</sup> 1 éš 2 gi kùš-2 Ur-tar <sup>4</sup>kiri<sup>6</sup> 2-kam-ma

<sup>11</sup>šū-nigin 100 (GAR.DU) 1/2 éš 5 gi e-kiri<sup>6</sup>-dù-a-kam, <sup>2</sup>gán-<sup>4</sup>Ab-Ú-ki-uzug-ka-kam, <sup>v</sup> <sup>1</sup>En-ig-gal <sup>2</sup>nu-bànda <sup>3</sup>mu-dù. 6.

此の記録 DP 655は、šū-nigin (=合計) 以下の総括部 (IV 1 - V 3) が示すように、長さが合計100 GAR.DU 1/2 éš (約638.6m) に達する、園のための人工灌漑水路 e-kiri<sup>6</sup> (IV 1 : …e-kiri<sup>6</sup>-dù-a-kam) の工事記録である。各項7項はそれぞれ、kiri<sup>6</sup> のために設置される灌漑水路 'e' の長さ、その水路工事の責任者ないし担当組織の名を記載する。これらの人名、職名、ないし組織が kiri<sup>6</sup> 自体の所有者もしくは栽培責任者である蓋然性はかなり高いと筆者は考える。

各項の水路工事の長さは一見それほど大きくはないが、実際は例えば é-mí 「妃の家」、<sup>11</sup>é-mí 「妃の世帯」への割当て工事 2 éš 5 gi kùš-4 šu-dù-a 2 は約135メートルに達し、またそれが代表ないし監督する組織の実態のやや不明な gúda 職の Lugal-é-da<sup>18)</sup> への割当て分 1/2 éš 2 gi kùš-3 でさえ約37メートルあるのである。

他方、TSA 25 (U.I. III) によれば、全6グループ、53人の集団労働によってウルヌトウク耕地の「新しい園」のために設けられた水路の為に行われた工事は、その記録に全7欄を消費しながら、その長さは全部で 1/2 éš 1 gi kùš-3 に過ぎない<sup>19)</sup>。総計638.6メートルに達する、DP 655において記録された gán-<sup>4</sup>Ab-Ú-ki-uzug-ka の「築かれた

17) gán-ùri-rù-a へ達する大規模灌漑水路の測量記録を含む、水路工事計画記録 DP 641 (Lugalanda\*\*-II) は計765 GAR.DU 2 gi kùš-3 =4551.5m の工事計画を記録している (IX 1 - 2)。

kiri<sup>6</sup>の水路」工事は、é-mí組織のほか、これと密接に関連しながら微妙にずれる幾つかの組織や集団による大規模集団労働によって行われたのである。<sup>20)</sup>

DP 655と同じような園の水路工事は、治世者名も治世年も不明な Fö 100にも記録されている<sup>21)</sup>が、両記録において記述された、gánへの灌漑水路と同じ'e'とは違った、おそらく一層小規模な、耕地内のkiri<sup>6</sup>の水路に言及した記録がある。

下に第Ⅱ表として掲げる DP 387がそれで、総括部(Ⅳ1-Ⅴ3)には、「沼地ambar<sup>ki</sup>の傍にある、エンシの持分地KUR<sup>6</sup>“小ギシュアン耕地”の園に区割されるsum(の面積)を数えた」とある。

DP 387においては、区割面積とsum-GU<sub>4</sub>など作物種類名から成る各項の、2~3項ごとに、「その小水路(pas-bi)は1つである」(Ⅰ3, Ⅲ2), 「そのDIŠ-sùは1つ

第Ⅱ表

DP 387(UruKAgina, lugal I)						
各 項 部	面 積	作 物 名	面 積	作 物 名	小 水 路 等	担 当 者
	A	(1) 1 46 sar	sum-GU <sub>4</sub>	2 14 sar	si <sub>4</sub> -lum	3 pas-bi 1-am <sub>6</sub>
	(2) 4 29 sar	sum-GU <sub>4</sub>	5 2 sar	sum-šag <sub>5</sub>	6 DIŠ-sù-bi 1-am <sub>6</sub>	-ka-kam
	(3) II 1 7 sar	sum-GU <sub>4</sub>	2 6 sar	sum-šag <sub>5</sub>	3 DIŠ-sù-bi 2-kam-ma	
B	6 21 sar	sum-GU <sub>4</sub> ·šag <sub>6</sub> ·ga	7 4 sar	<sum->šag <sub>5</sub> ·šag <sub>6</sub> ·ga	III 2 pas-bi 1-am <sub>6</sub>	3 Niġin-mud 4 šeš Ur-nu-ka-kam
	III 1 9 sar	sum-GU <sub>4</sub> -nu-šag <sub>6</sub> ·ga				
総 括 部	IV 1 sum-kiri <sub>6</sub> -sur-dam	2 gán-GIŠ. AN-tur	3 KUR <sub>6</sub> -énsi-ka-ka	4 zag-ambar <sup>ki</sup> .ka	gál-la-a	5 En-ig-gal
	V 1 nu-bānda	2 ki-mú-a-ba	3 e-me-šid.			
				4 Uru-KA-gi-na	5 lugal	6 Lagas <sup>ki</sup> . 1.

18) Cf. VAT 4732 Ⅳ 1 (第Ⅲ表(4)'kiri<sup>6</sup>'欄参照). 計 3 iku 14 sar の亜麻類などの栽培地がここではkiri<sup>6</sup> Lugal-é-da-ka-kam と注記されている。

19) TAS 25では、kin<e>-dù-a kiri<sup>6</sup>-gibil gán-UL-nu-tuk-ka (Ⅵ 1-2) の作業は、e-dù-a gán...の場合と違って nu-kiri<sup>6</sup>, DÙ-a-tar, igi-nu-dus のグループ 6 箇の組織的労働によって行われた。

20) ちなみに注17) で触れた DP 641において記録された合計 765 GAR.DU 2 gi kùš. 3 の工事計画のうち、支配者妃の組織の人々の担当分は190 GAR.DU=1128.6mである。

21) Fö 100と DP 655の記載内容は、各項の担当者名と順序が全く同一でありながら、担当分の長さは DP 655よりも Fö 100の方が少しづつ小さいという差異がある (Cf. Bauer 1970: 51)。

である／2番目である／」(I 6, II 3)との附記があり、耕地内の菜園としてのkiri<sup>6</sup>の小区割に対して設けられた小水路が明記されている。

しかも各項前段部A(第II表参照)は、面積・作物名・附属小水路から成る(1)(2)(3)3項の記事の後に、「果樹栽培者ウルヌのである」(II 4-5), 後段部B(II 6-III 3)も、3つの面積・作物名・附属水路記事の後に、「ウルヌの弟ニギムドのである」(III 3)という注記を有している。ニギムドはnu-kiri<sup>6</sup>としての明確な記事を他に有している故に, pas, DIŠ-sùなどの「園」用の小水路が、区割される園(IV 1: sum-kiri<sup>6</sup>-sur-dam)ともども, nu-kiri<sup>6</sup>職の所管であったことが此の記録によって明かとなる。

pasが耕地中の菜園に対してだけでなく、果樹園の中にも設けられたことを示す記録が別にある(DP 419)。此の記録では1果樹園中にpasが9箇数えられている。pasは2種類のkiri<sup>6</sup>に対して設置されていたのである。DP 419においても, pasを附属施設として含むkiri<sup>6</sup>-Ba-Úの責任者として, nu-kiri<sup>6</sup>職であることのみかなÉ-tuとその息子の名が挙げられる。

以上の論証によって耕地内の菜園としてのkiri<sup>6</sup>も、独立した果樹園としてのkiri<sup>6</sup>も、独自の灌漑用水路を有する場合があったことが確認された。このことは、耕地内のkiri<sup>6</sup>も独立した果樹園としてのkiri<sup>6</sup>同様、その設置のために特別な水路工事を必要とする場合があったことを示している。実際TSA 25 VI 2-3によれば、「ウルヌトゥク耕地の新しいkiri<sup>6</sup>」のために新しい水路工事が行われたのである。

耕地内のkiri<sup>6</sup>の, ki-sum-maに対する第2の, そして文書記載形式における特色は, ki-sum-maの区割・定植記録においては, 畝数(àbsin-bi)およびgán-biによって導かれる面積関係記載が行われたのに対して, àbsin数が絶対に数えられることがないことである。此のàbsinが数えられないという特徴は、既に検討した, kiri<sup>6</sup>-biによって面積数が導かれる7記録や、独立した園の一つと考えられるkiri<sup>6</sup>-Duu-ga-ni-mu-gi-naの収穫記録DP 374において確認された。さらに、次に掲げる第III表に要綱を記載した、耕地内の、もしくはLocation指示の無いkiri<sup>6</sup>関係の15記録のうち、面積記載を有する3記録においてもàbsin数は数えられないのである。

此の3記録のうち2つは, (4) VAT 4732と(10) DP 387で、ともに耕地内のkiri<sup>6</sup>において栽培中のsum類その他の面積を数えた(/mu/e-me/-šid)記録であり、ともに附属施設((4)ではé-RIN-na, (10)ではpas, DIŠ-sù)も数えられている。

残る1つは(8) TSA 41で、3つの耕地の中の、4人のnu-kiri<sup>6</sup>所管のkiri<sup>6</sup>-sur-raにおいて収穫されたsum類およびsi-lumの収穫・搬入記録である。

第 III 表

No.	Source	Variety of items	kirig <sub>6</sub>	Location & Conduct
(1)	DP 655 (L** .VI)	. . éš . gi: 7 items	e-dù-a kirig <sub>6</sub> gala-maḥ / Ur-tar / . . . ; e-kirig <sub>6</sub> -dù-a-kam	gán-dAb-Ū.ki-úzug-ka-kam En-ig-gal nu-bànda mu-dù
(2)	Fo 100 (L** .?)	. . éš . gi: 7 items	kirig <sub>6</sub> gala-maḥ / Ur-tar / é-mi / . . . ; e-tur-maḥ-ba	_____
(3)	DP 404 (L** .VI)	. . sum-sikil: / Šeš-lú-dùg / É-me-lám-sù / Dam-AN-mu (I 1-3)	kirig <sub>6</sub> É-tu-ka mu-gál (II 2-3), sum-numun-am <sub>6</sub> (II 4)	ki-sum-ma gán-ù-gig-ka-ta En-ig-gal nu-bànda mu-ba-al (III 5-IV 3)
(4)	VAT 4732 (U* .e. <sup>2</sup> .I) [Deimel 1925 (b):15]	. . sum-sikil gur-sag-gál (II 5) . . sar / gu-sig / sum-gaz / gu / -nim / -ús / ; é-RIN-na / 1 / 2- kam-ma / -am <sub>6</sub>	níg-šám-ma-kam, Ur-é-mùš dam-gàr ba-túm (III 1-4) kirig <sub>6</sub> Lugal-é-da-kam (IV 1)	gán-dag(1)-ji-a gán-dBa-Ū -ka En-ig-gal nu-bànda mu-šid
(5)	DP 388 III 1 - IV 4 (U. I.-I)	1. 1 / 4. 2 / 24 tu-sum-sikil gur-sag-gál (III 1)	kirig <sub>6</sub> É-tu-ka ba-túm (III 2-3)	ki-sum-ma gán-dùn-úh-ka-ta Šag <sub>5</sub> -šag <sub>5</sub> d. U. I. L. ki-ka-ke <sub>4</sub> mu-ba-al.
(6)	DP 390 I 4 - III 5 (U. I. II)	/ 4 / 3 / tu-sum-sikil- / gal- gal / tur-tur / (gur-sag-gál) (I 4-II 1)	kirig <sub>6</sub> É-tu-ka mu-gál (II 2-3)	ki-sum-ma gán-gír-ka-ta Šag <sub>5</sub> -šag <sub>5</sub> d. U. I. L. ki-ka-ke <sub>4</sub> mu-ba-al (II 4-III 4)
(7)	HSS 3. 69 (U. I. ** .III)	/ 2. 1 / 4. / 2 / 4. / tu-sum- sikil- / gal-gal / tur-tur /	AN-a-mu nu-kirig <sub>6</sub> -ke <sub>4</sub> kirig <sub>6</sub> É-tu-ta mu-túm (II 1-4)	En-ig-gal [nu-bànda [äbsin? -bi] gán-gír-ka mu-sur
(8)	TSA 41 (L. ** .VII)	sum-GU <sub>4</sub> sum-šag <sub>5</sub> si <sub>4</sub> -lum	kirig <sub>6</sub> -sur-ra-bi .-(5 times), / Ur- dTúg-nun / É-tu / Šubur dumu É- tu / Ur-dLáma / gán . . ta ì-túm (3 times), sum-kirig <sub>6</sub> -sur-ra-kam (V 3)	AN-a-mu nu-kirig <sub>6</sub> -ke <sub>4</sub> mu-ba -al, En-ig-gal nu-bànda é- níg-ga-ra ì-túm (V4-VI 5)

(9)	DP 373 I 6 -III 6 (U. e. 1)	[ ] sa gu sa gu	gu-é-gal-kam gu kirig <sub>6</sub> -sur-ra Ur-nu nu-kirig <sub>6</sub> -ka-kam (II 1)	En-ig-gal nu-bānda ambar-ki-ta mu-sig <sub>7</sub> .
(10)	DP 387 (U. 1. 1)	-- sar /sum-GU <sub>4</sub> (-sāg-ga) / sum-šag <sub>5</sub> /si <sub>4</sub> -lum pa <sub>5</sub> -bi, DiŠ-su(-bi)	Ur-nu nu-kirig <sub>6</sub> -ka-kam; -- Nigin-mud šeš Ur-nu-ka-kam (II 3 . 5)	sum-kirig <sub>6</sub> -sur-dam gán-GiŠ. AN-tur KUR <sub>6</sub> -énsi-ka-ka zag -ambar-ki-ka gál-la-a En-ig- gal nu-bānda e-me-šid
(11)	DP 407 (? . ?)	129 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -sar	sum-kirig <sub>6</sub> -sur-ra Ur-nu nu- kirig <sub>6</sub> -ka-kam (I 2 . 4)	En-ig-gal nu-bānda ambar-ki- ta mu-ba-al (I 5-II 3)
(12)	DP 396 II 4-V 4 (U. 1.**-II)	240 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -sar (II 4) /144/40/gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -sar -- sum-Dilmun --	kirig <sub>6</sub> gán-gír-ka-ta (II 5) sum kirig <sub>6</sub> /sur-ra Ur-nu nu- kirig <sub>6</sub> -ka-kam /-é-gal-ka-kam / gán-gír-ka-kam, é-ki-šál-la- ta ì-túm (III 1 - 3 / 5 /, IV 4-6)	En-ig-gal nu-bānda mu-ba-al En-ig-gal nu-bānda é-mí-a e-pad, gán-gíbil-tur-ra mu-sur
(13)	DP 372 (U. 1. II)	371 sa gu-sub <sub>5</sub> -ha 272 sa gu	gu-é-gal-kam (I 2) kirig <sub>6</sub> -sur-ra-kam (I 3)	GiŠ. AN-tur Šag <sub>5</sub> -šag <sub>5</sub> dam Uru- KA-gi-na lugal Lagaš-ki-ka-ke <sub>4</sub> mu-sig <sub>7</sub>
(14)	TSA 25 (U. 1. II)	-- kin-bi -- éš -- gi (nu-kirig <sub>6</sub> , dù-a-TAR, igi-nu-dug)	AN-a-mu, É-tu, É-ta-e <sub>11</sub> , Ur-ki, En-kisal-si, Nimgir- abzu (I 7, II 7, III 2, 7, IV 4, V 2)	kin-dù-a kirig <sub>6</sub> -gíbil gán-UL-nu- tuk-ka al-dù-dam, En-ig-gal nu-bānda mu-dù, kirig <sub>6</sub> -ú-rum dBa-Ú (V 1 - VI 1)
(15)	BIN 8, 369 (U. e.**.1)	-- gu-lá sum-GU <sub>4</sub> -- (6 items) 110 gu-lá sum-GU <sub>4</sub> /5/55/ gu-lá sum-GU <sub>4</sub> . .	é-gal-kam (I 1 - III 1) kirig <sub>6</sub> -sur-ra, En-ig-gal nu- bānda e-pad (III 2 . 4)	gán-ù-gig-ga-še ba-túm En-ig-gal nu-bānda SAR-ra gá- gá-dè-AN-a-mu-e-na-sum (V 1 - 5)

absin-bi, gán-bi によって導入される面積記載を決して持たないことが, kiri<sup>6</sup> に関するすべての記録を通じての特徴であることが, ここに確認された。

耕地内もしくは地理的所属不明の kiri<sup>6</sup> に関する記録の第3の特色は, 第Ⅲ表の kiri<sup>6</sup> 欄を一見して明かなように, kiri<sup>6</sup> 栽培の責任者が多くの場合明記され, しかもただ1度の例外を除いて, すべて nu-kiri<sup>6</sup> 職の人々であることである。<sup>22)</sup> 此の事実は, ki-sum-ma の mu-sur 記録において nu-kiri<sup>6</sup> 職の名が見えないことや, ki-sum-ma の収穫記録中に, 時に sag-apin や šub-lugal の長 (ugula) の名が現れる<sup>23)</sup> ことに対して, 顕著な対照をなす。此の第3の特色はまた果樹園としての kiri<sup>6</sup> においても顕著であって, これまた, kiri<sup>6</sup> の名を附せられたすべての location の経営に共通の特色であった。<sup>24)</sup>

以上の論究によって, 耕地内もしくは location 指示のない菜園としての kiri<sup>6</sup> の, ki-sum-ma とは異った3つの特徴—(1) kiri<sup>6</sup> 専用の灌漑水路 (e, pas, DIŠ-sù) の設置, (2) absin-bi 記載の欠如, (3) その設置・栽培・収穫は通常 nu-kiri<sup>6</sup> 職の人々によって行われた—は, 果樹園としての kiri<sup>6</sup> においても, kiri<sup>6</sup>-bi によって導かれる面積記載を持つ野菜栽培関係記録においても, 基本的に確認される共通の特徴であることが明かになった。

特に耕地内の kiri<sup>6</sup> がこれらの特徴を有することは, 同じように耕地内において野菜栽培のために区劃・設置された ki-sum-ma との非互換性, すくなくとも同一年もしくは同じ条件下の数年間における非互換性, すなわち同一耕地内に両者が記録された場合, 両者は異った態様を示す別の場所を指しているという, 重要な結論へと我々を導く。<sup>25)</sup>

#### 4 特定の時期・態様および特定の地区における菜園としての kiri<sup>6</sup> 栽培

前節で論究したように, kiri<sup>6</sup> と ki-sum-ma が同じく野菜類栽培地でありながら別の location を指すこと, 視点を変えて見れば, kiri<sup>6</sup> が普通の gán や gán 内の ki-sum-ma とは違った, 特別の条件を具えた場所に設置されたことをいっそう端的に示すのが, kiri<sup>6</sup> への特定作物の, 特に特定の栽培時期への集中という現象と, 特定の地域ないし耕地への kiri<sup>6</sup>, kiri<sup>6</sup>-bi 関係記録の集中, そしてそこにおける ki-sum-ma 記録の欠如という事実であろう。

22) 例外とは, 本文および注18) で問題にした(4) VAT 4732 Ⅳ 1 の Lugal-é-da である。また DP 655 Ⅲ 1-2, F6 100 Ⅱ 3-4 参照。

23) 例えば第Ⅲ表(3) DP 404 I-Ⅱ ('Variety of items' 欄参照) において, ki-sum-ma gán-ù-gig-ka の3項の収穫物名の後に, それぞれ, šeš-lú-dùg (I 1), É-me-lám-sù (I 2), Dam-AN-mu (I 3) の名が現れる。後出本文17ページ参照。

24) 例外として先に言及した, DP 374の8項の…sar-sur-ra の後の人名が問題になる。



先ず, kiri<sup>6</sup>においてのみおこる, 特定作物の特定の栽培態様について検討してみよう。

第Ⅲ表(3)にその要綱を記述した DP 404は, 総括部(Ⅲ 5-Ⅳ 3)('Location...'欄参照)の記載によれば, ウギク耕地の「玉葱」畠 ki-sum-ma の収穫記録であるが, 内容部分の記事(同表, kiri<sup>6</sup>欄参照)は, ウギク耕地内の ki-sum-ma において収穫された sum-sikil (にんにく(?) )の現況に関する記録である。此の内容部分が二つの記事に分かれる。前半部(Ⅰ 1-Ⅱ 4)はやや複雑な構成を有し, gur-2-UL(Ⅰ 1, Ⅱ 1)で数えられた3項の sum-sikil の量の後にそれぞれ Šeš-lú-dùg(Ⅰ 1), É-me-lám-sù(Ⅰ 2), Dam-AN-mu(Ⅰ 3)<sup>261</sup> という šub-lugal の「長」ugula の名前が記され, 収穫 sum-sikil の合計が 27 1/2 gur-2-UL(Ⅱ 1)と記された後, 「(それらは)(nu-kiri<sup>6</sup>職の)エトウの kiri<sup>6</sup>にある, 種玉である」(Ⅱ 2-4)というまことに注目すべき, 現況・用途に関する記述がある。ki-sum-ma gán-ù-gig-ka(Ⅲ 5)において収穫された sum-sikil が, 収穫後ただちに nu-kiri<sup>6</sup> 職のエトウの kiri<sup>6</sup> に運ばれ, そのまま次期作のための「種玉」sum-numun として kiri<sup>6</sup> に(置かれて)ある」と言うのである。

DP 404の内容部前段の各項記事(Ⅰ 1-Ⅰ 3 ;(3)'Variety of items'欄参照)そのものは ki-sum-ma gán-ù-gig-ka における収穫に直接かかわる記事であり, 合計(Ⅱ 1)に対する附記が, 収穫 sum-sikil が種玉として使用されるべく, 直ちに nu-kiri<sup>6</sup> 職所管の kiri<sup>6</sup> に運ばれてそこにある現況・態様を示すという, 複雑な構成を此の記録は有している。

後段(Ⅱ 5-Ⅲ 4)においては, 計量単位が前段の gur-2-UL の倍の大きさの gur-sag-gál(Ⅱ 5)に変わるが, 収穫は一項のみであり, 収穫量も 1 2/24 gur-sag-gál に過ぎず, 収穫に関する補記は一切なく, ただちにその現況, すなわちそれがバーター貿易用の商品であり(níg-šám-ma-am<sup>6</sup>:Ⅲ 1), 商人ウルエムシュが持ち出した(Ⅲ 2-4)ことが記述される。前段・後段ともに, 倉庫への搬入という通常のコースとは異なった態様・用途を記録していることが注目されるのである。

DP 404と同種の記録で, 同じく前後2段より成るが, 前段・後段の対照がより明確な収穫記録 DP 390(第Ⅲ表(6)参照)を見れば事情は一層はつきりする。

25) 此の非互換性の問題を考えるに際しては, ウルカギナ王治世Ⅱ年に属する gán-gír-ka に関する五つの収穫記録(DP 397\*\*, DP 390, Fö 6, VAT 4654, DP 396\*\*Ⅱ 4-Ⅳ 5)と, 前年の, 合計 6 iku に達する ki-sum-ma gán-gír-ka (-kam) の大型 mu-sur 記録 Nik I 46との関連が興味ある問題を提示する。

26) Dam-AN-mu は ugula šub-lugal としてばかりでなく, àga-ús の ugula としてもテキストに現われる。

DP 390では、(6)においては省略した前段 (I 1-3) は '83 gu-lá za-ha-ti 'é-ki-šál-ka 'ba-túm という記事である。作物はザハティ83括り、収穫作業に関する附記はないが、収穫後の処理に就いては「キシヤルの倉庫へ運んだ」という明確・単純な記述がある。倉庫名と運搬行為が記録されるだけである。第Ⅲ表(6)に記入した後段の各項部 (I 4-II 1) とその注記 (II 2-3: 'kiri<sup>6</sup>欄参照) が DP 404の前段に相当する。収穫物は大小の tu-sum-sikil で、「エトウの園にある」(II 2-3) という、DP 404前段附記箇所的前半とまったく同文の注記が付せられている。DP 404に付加された sum-numun-am<sup>6</sup> は DP 390の該当箇所には欠けているが、にんにく(?)の tu がエトウの園に置かれてあるその目的が、DP 404と同様、種玉としての利用にあったと推定して誤りはないであろう。

(3) DP 404, (6) DP 390の両テキストは、kiri<sup>6</sup> への言及が、sum-sikil および tu-sum-sikil という特定の作物の収穫に際して、倉庫に搬入される<sup>27)</sup> ことなく即座に kiri<sup>6</sup> へ、種玉として植えられる為に運ばれるという特定の態様と結びついた例である。

同じ様に別の耕地の ki-sum-ma で収穫された作物のうち、甘玉葱 sum-šag<sup>5</sup> が é-ki-šál-la へ搬入され、他方、tu-sum-sikil がエトウの園へ運ばれた例が 1 例 (DP 388 III 1-3<sup>28)</sup>: 第Ⅲ表(5)), 反対に、エトウの園で栽培されていた大小の tu-sum-sikil を nu-kiri<sup>6</sup> 職の頭のごとき存在であるアンアムが運び出し、管理者エニッガルが別の耕地 gán-gír-ka においてその畝 àbsin(?) を区劃した例 (Fö 69: 第Ⅲ表(7)) が 1 例ある。

何れにせよ上述の 3 例のごとく、別の耕地の ki-sum-ma で収穫された /tu-/sum-sikil がただちに種玉として kiri<sup>6</sup> へ送られることがあり、しかもその様な例が /tu-/sum-sikil に集中していることは、sum-sikil=にんにく説の一支柱となるばかりでなく、菜園としての kiri<sup>6</sup> が一搬耕地や耕地内 ki-sum-ma とは異なり、収穫直後の、一般耕地の栽培・休閑の転換期にあっても、kiri<sup>6</sup> としての態様において存続したおとを如実に示している。

しかし他方で、収穫直後に収穫物が kiri<sup>6</sup> へ送られた記録中に、/tu-/sum-sikil 以外の「玉葱」類の種類が現れる記録が一つ存在する。

DP 405 Lugalanda\*\*IV [cf. DEIMEL 1925(b): 20]

<sup>1</sup>10 gu-lá sum-GU<sup>4</sup>-suh<sup>5</sup>-ha, <sup>2</sup>8 gu-lá sum-GU<sup>4</sup>-ús-bi

27) sum-GU<sup>4</sup>, sum-sikil その他の、ki-sum-ma での収穫物は é-nig-ga, é-ki-šál-la, é-KI.LAM-ka (-ka), é-é-bar-<sup>a</sup>Bil-aga-mes-šè-dù-a などの倉庫(?)へ運ばれた。山本 1984: 注(60): Bauer 1970: Nr.16 (Fö 7) zu IV 1; Rosengarten 1960: 27, n. (1)参照。

28) DP 388全文の翻字は、山本 1984: 81に掲げてある。

<sup>3</sup>10 gu-lá sum-Dilmun-suh<sup>5</sup>-ha, <sup>4</sup>4 gu-lá sum-Dilmun-ús-bi

<sup>2</sup>4 gu-lá sum-šag<sup>5</sup>

<sup>3</sup>ki-sum-ma gán-da-sig<sup>7</sup>-ta <sup>4</sup>En-ig-gal <sup>2</sup>nu-bànda <sup>3</sup>mu-ba-al, 'AN-a-mu <sup>5</sup>nu-kiri<sup>6</sup>-ra e-na-šid, <sup>4</sup>kiri<sup>6</sup> id-zubi-ka-ka <sup>2</sup>mu-gál, 6.

ここでは、「括り」で数えられたグ‘玉葱’、ディルムン‘玉葱’、甘‘玉葱’を「ダシグ耕地の‘玉葱’畝 (ki-sum-ma) で管理者エニツガルが掘り出しまして (mu-ba-al), それを果樹栽培人アンアムに (対して) 数えた。(それらは) ズビ川 (沿い) の圃にあります」(II 3-IV 2) と記されている。

注目すべきは、これらの‘玉葱’類が収穫に際して常にそれによって数えられる gu-lá ‘括り’で各項が数えられていることである。ki-sum-ma の‘畝’ àbsin への区割・定植を記述する mu-sur 記録において、これらの‘玉葱’種類も sum-sikil と同じ様に gur-sag-gál—sila で計られていた。従って推測をたくましくすれば、DP 405は掘り出したばかりの‘玉葱’類を、そのままの形状で、此の独立していて特定場所に半永続的に設けられた kiri<sup>6</sup> に、種子の採取のために植えたことを暗示している様に思われる。それは兎も角として、DP 405のごとく、gu-lá で数えられた“玉葱”類がそのまま次耕作年度の栽培のために送られる例は、此のように kiri<sup>6</sup> にはあっても、ki-sum-ma に送られてそこに「あります」 mu-gál という記事は絶無である。

DP 404, 390, 388, 405の4タブレットの示すのは、kiri<sup>6</sup>における、収穫直後の、一般耕地において、二圃制に基く栽培地(↔)休閑地の転換のための灌漑作業やさまざまな農作業が施される耕作年の転換期における、次期耕作年のための sum-sikil を中心とする栽培、および sum-/GU<sup>4</sup>/Dilmun/šag<sup>5</sup>/の栽培準備という、特定の栽培時期の特定の態様である。一考すれば明かなように、此のようなkiri<sup>6</sup>栽培独自の態様や、kiri<sup>6</sup>のみが果たす機能<sup>29)</sup>は、kiri<sup>6</sup>栽培ないし kiri<sup>6</sup>そのものの、一耕作年を越えた連続性によってはじめて可能であった。

なお、kiri<sup>6</sup>もしくは以下に問題にする特定の耕地ないし無指定の場所<sup>30)</sup>においてしか栽培関係記録を有しない根菜類として si<sup>6</sup>-lum が挙げられることを附言しておかなければならない。

次に、野菜類栽培に関して kiri<sup>6</sup>に就いての記録のみが現れ、決して ki-sum-ma 関係記録が現れない特定の場所がある問題について検討する。問題の場所とは ambar<sup>hi</sup> と GIŠ.AN-tur 或いは gán-GIŠ.AN-tur/-ambar<sup>hi</sup>/の2地区である。

先ず上掲第I表(4) DP 370の記載とそれに関する本文記述を再検討してみよう。(4)

DP 370では、その栽培面積80 (sar) が kiri<sup>6</sup>-bi によって導かれる678束のエラム亜麻を、「管理者エニッガルが“沼地” ambar<sup>ki</sup> で引き抜きました」(I 3-Ⅱ 3)と書かれ、その収穫物を「彼(=エニッガル)が宝庫管理者(lú-é-níg-ka)エンナンガレの為に数えた」(同表(4)Conduct 2'欄参照)ことが記録される。

注目すべきことは先にも指摘したように、此の収穫場所が、そこにおいて穀物栽培が行われていたことが知られる「沼澤地耕地」gán-ambar においてではなく、ambar<sup>ki</sup> そのものであることである。「湿地」ambar<sup>ki</sup> と呼ばれる地区の一部において亜麻が栽培され、収穫されたのである。

他方、我々はエンエンタルジ時代からルガルアンダ時代にかけての灌漑水路工事記録において、e-gán-ambar と共に、或いは e-gán-ambar への言い換え無しに、e-ambar なる表現が使用されていたことを知っている。<sup>31)</sup> ambar<sup>ki</sup> における菜園地は、おそらく此の e-ambar, e-gán-ambar に沿った場所に設けられたのであろう。

前稿に翻字を掲げた DP 373 (本稿第Ⅲ表(9)参照)及び DP 407 (同(11)参照)<sup>32)</sup>においても、ambar<sup>ki</sup> における kiri<sup>6</sup>-sur-ra Ur-nu-kiri<sup>6</sup>-ka-kam の亜麻やグ‘玉葱’の収穫が記録されている。しかも一方では ambar<sup>ki</sup> においても gán-ambar においても、ki-sum-ma への言及は一切欠けている。

同様の事が GIŠ.AN-tur, gán-GIŠ.AN-tur, gán-GIŠ.AN-ambar<sup>ki</sup> についても確認される。gán-GIŠ.AN-tur は時に gán-GIŠ.AN-tur KUR<sup>6</sup>-ensí-ka-ka zag-ambar<sup>ki</sup>-ka gál-la-a (第Ⅲ表(10) DP 387, 'Location...'欄参照)とも書かれ、それが ambar<sup>ki</sup> の傍にあったことが知られる。もちろん此の地においても灌漑水路工事は行われた。<sup>33)</sup> 此の地の野菜栽培関係記録6個<sup>31)</sup>のうち5個に kiri<sup>6</sup>-bi, kiri<sup>6</sup>-sur-ra, sum-kiri<sup>6</sup>-sur-dam (DP 387) の表現があらわれ、6個ともに ki-sum-ma の文字は現われない。問題は第2章末に触れた DP 620 であって、此の3つの location に関する抱括的な亜麻収穫記録では、第1が kiri<sup>6</sup>-Du<sup>11</sup>-

29) 此の様な kiri<sup>6</sup> の機能は、定型的な区劃・定植(mu-sur)記録中に、植えられるべき作物名とその量の記載はあっても、それがどこから持ち出されたかが記載されたことが絶無である理由の、少くとも一端を示唆している。他方、収穫記録においては、搬入倉庫名が記載される場合がかなりあった。

30) location 指示のない si-lum 栽培関係記録2箇のうち Fö 114 [BAUER 1970: No.94] においては AN-a-mu nu-kiri<sup>6</sup> が植えられるべき si-lum の受取人として、VAT 4667 [DEIMEL 1925 (b): 22] では同じ AN-a-mu nu-kiri<sup>6</sup> が収穫責任者として現われる。「束」で数えられる si-lum がどのような野菜・植物種類を表わすかについては定説はない。Cf. Bauer 1970: Nr.94 (=Fö 114) zu I 1; Rosengarten 1960: 321, n. 2.

ga-[ni-m]u-gi-na (I 3), 第2が GIŠ(!).AN-tur (II 4), 第3が gán-ù-gig (III 1) と言う, それぞれ類を異にする場所で収穫された亜麻が同列に取扱われている。GIŠ.AN-tur に関しては無指定として取扱うしか方法が無い。

何れにせよ, ambar<sup>h</sup> や /gán-/GIŠ.AN-/tur/ambar<sup>h</sup>/ など, 湿地であって水路工事をしばしば行うことによって耕地の造成・拡大中の地区の水路沿いに, kiri<sup>6</sup> と呼ばれる野菜栽培地があったのである。これらの地区や耕地で ki-sum-ma が見出されないのは, 水路・耕地ともに整備中で, 耕地内に野菜栽培地としての ki-sum-ma を安定的に「区割」することができなかったからであろう。<sup>35)</sup>

以上のごとき本節の論証によって kiri<sup>6</sup> 独自の機能と特定地区・耕地における kiri<sup>6</sup> のみの存在の意味するものが明かにされたと考える。しかし kiri<sup>6</sup> の location の条件に関してはなお多少吟味すべき点が残る。それは少数の耕地において ki-sum-ma と kiri<sup>6</sup> の双方が併存する場合が少数ながらあるが, 此の場合に両者を分けた条件は何かと言う問題である。

ただし此の併存を問題にする時, 十分に留意すべきは, gán-<sup>4</sup>Ab-Ú が6, gán-gibil-tur が7, gán-dùn-ùh が14, gán-gír-ka が16, gán-ù-gig が14個の野菜栽培関係記事を有するのに, 合計57の記事のうち kiri<sup>6</sup> 栽培記録は gán-<sup>4</sup>Ab-Ú に1, gán-gír-ka に3, 計4にすぎないと言う事実である。確立された耕地内の野菜栽培は主として ki-sum-ma において行われたのであった。

しかしながらここに注目すべき事実が ki-sum-ma に就いて存在する。それは, kiri<sup>6</sup> 栽培記録が皆無の gán-ù-gig 内の ki-sum-ma に関する, ルガルアンダ治世V年からVI年にかけての3記録 (Nik I 49, DP 408, DP 383) は, ki-sum-ma gán-ù-gig/-ga (-ka) /nag-KU<sup>5</sup>-<sup>4</sup>Lugal-uru/-bar-ka (-ka) /gál-la/ 「ルガルウル (バル) 神の貯水ダム (nag-KU<sup>5</sup>) が在る, ウギグ耕地の‘玉葱’畠」と呼ばれる特定の場所の ki-sum-ma の一作付に関する区割—収穫を記録していると言う事実である。ki-sum-ma もまた, 時に nag-KU<sup>5</sup> のごとき重要な灌漑施設の周辺に設けられることがあったのである。

此の3記録の14個の gán-ù-gig 関係記録中の初出性や, 上記5耕地における kiri<sup>6</sup> の孤立性を考量して, 筆者は, 同一耕地内においても, 両者を分ける条件として, 通常は,

31) Cf. DP 616 I 1 (cf. V 1 : e-gán-ambar) (E.\*-IV), DP 623 III 9, V 4 (L.-III), DP 645 II 7 (: e-ambar-ra) (L.\*\*-III), DP 627 I 1 (cf. IV 1 : …e-gán-ambar-ka) (L.-V). ウルカギナ時代には e-ambar なる表現は現われないが, gán-ambar なる表現は存続する。

32) 山本 1984 : 95f., 史料(8)および ibid. : 83, 史料(5)参照。

33) Cf. VAT 4719 [DEIMEL 1923-24 : 289].

ki-sum-ma が穀物耕地部分と同じ水利条件の下にあって特別な水路設置などの作業を必要としないが十分野菜栽培に適した場所であるのに対して、kiri<sup>6</sup> は農耕年の移行期にも存続し易い、2 圃制の実施に影響を与えない場所にあり、しかもそれ自身のための小規模の灌漑・排水工事を行い得る場所にあるという、地理的条件を想定する。kiri<sup>6</sup> が nu-kiri<sup>6</sup> 職の管轄下にあるのに対して、ki-sum-ma は一般耕地と同じく管理者エニッガルの統括のもと sub-lugal や sag-apin たちの労働に依存していたことも、上に想定した地理的・技術的条件の違いと符合する。

### おわりに

以上の考察・論証によってこれまで曖昧なままにされてきた、前サルゴン期ギルス＝ラガシュ都市国家時代の野菜栽培における kiri<sup>6</sup> の意義が、はじめて或る程度具体的に明らかにされたと考える。その要点は以下の3点に要約されるであろう。

(1) 野菜栽培地、菜園としての kiri<sup>6</sup> は時に独立果樹園としての kiri<sup>6</sup> に付属し、時に耕地の中の特定条件の場所や、湿地地区の灌漑水路沿いに設置されたことが立証される。kiri<sup>6</sup> には専用の灌漑用水路が設置された。

(2) 前サルゴン期ギルス＝ラガシュにおける野菜栽培は、一見 ki-sum-ma における方が主であった様に見えるが、kiri<sup>6</sup> における野菜栽培は、二年生作物や、収穫期から次年度耕作への耕作年度転換期における種玉の育成や新年度用の種の採取などのために、おそらく耕地と共に一年ごとに移転された ki-sum-ma の消滅もしくは縮小の時期に、重要な機能を果たした。

(3) 菜園としての kiri<sup>6</sup> も、果樹園としての kiri<sup>6</sup> 同様、nu-kiri<sup>6</sup> 職＝果樹・野菜栽培者（通常「庭師」Gärtner と訳される）の管轄の下にあった。これに対して ki-sum-ma の栽培・収穫は、主として sub-lugal の手によって行われたと考えられる。

此の様に当時の kiri<sup>6</sup> における野菜栽培には重要な意義が認められるが、しかし ki-sum-ma における野菜栽培が主流となっただけ、史料も ki-sum-ma に関する方が遙かに多く、kiri<sup>6</sup> 関係記録だけからは析出し得ない、野菜栽培に関する幾つかの基本的事実をさらに引き出すことができる。我々は上記3つの特徴を確認し得たことを以って、菜園としての kiri<sup>6</sup> に就いての検討を一応終え、ふたたび ki-sum-ma 記録を中心とする分析

34) DP 371 (第 I 表 (3)), DP 386 (同(8)), DP 387 (第 II 表), TSA 41 (第 III 表(8)), DP 372 (同(13)), および DP 620.

35) si-lum が kiri<sup>6</sup> 栽培の証拠しかないのとは反対に、/sum-/za-ha-ti, še-lú (コリアンドル) gú-gú/-GU/ (豆類) には ki-sum-ma 栽培の証拠のみがあって、kiri<sup>6</sup> 栽培の例が次けている。

を進めたいと考える。

### 史料略号

- DP De la Fuije, Allotte, *Documents présargoniques*, 5 fascicules. 1908–1920, Paris.
- BIN 8 Hackman, G.G., *Sumerian and Akkadian Administrative Texts, Babylonian Inscriptions in the Collection of James B. Nies (= BIN)*, Yale University, 8. 1958, New Haven.
- Fö Förtsch, W., *Altbabylonische Wirtschaftstexte aus der Zeit Lugalanda's und Urukagina's, Vorderasiatische Schriftdenkmäler (=VS)*, 14. 1916, Leipzig.
- HSS 3 Hussey, M. I., *Sumerian Tablets in the Harvard Semitic Museum, Part I: Chiefly from the Reigns of Lugalanda and Urukagina of Lagash, Harvard Semitic Series (=HSS)*, 3. 1912, Cambridge.
- Nik I Nikol'skij, M. V., *Dokumenty chozjajstvennoj otčetnosti drevnejšej epochi chaldei iz sobranija N. P. Lichačeva*, 1. *Drevnosti Vostočnyja* 3, 1908, St. Petersburg.
- TSA De Genouillac, H., *Tablettes sumériennes archaïques: Matériaux pour servir à l'histoire de la société sumérienne*, 1909, Paris.
- VAT Museumssignatur Berlin (Vorderasiatische Abteilung Tontafeln).

### 参考文献

- DE LA FUIJE, Allotte.  
1915 Mesures agraires et formules d'arpentage, *RA* 12.
- BAUER, J.  
1970 *Altsumerische Wirtschaftstexte aus Lagasch, Studia Pohl*, 9, Rome.
- BOTTERO, J.  
1980 'Knoblauch', *Reallexikon der Assyriologie und Vorderasiatischen Archäologie (=RIA)*, 6 (1–2), Berlin.
- DEIMEL, P. A.  
1923–24 *Šumerische Grammatik der archaischen Texte, OrSP* 9/13.  
1924(a) Die Vermessung der Felder bei den Šumerern um 3000 v. Chr., *OrSP* 4, ed. 2.  
1924(b) Die Verarbeitung des Geterides, *OrSP* 14.  
1925(a) Die altšumerische Baumwirtschaft, *OrSP* 16.

1925(b) Die Gemüsebau bei den alten Šumerern, *OrSP* 17.

1931 *Šumerische Tempelwirtschaft zur Zeit Urukaginas und seiner Vorgänger. Abschluss der Einzelstudien und Zusammenfassung der Hauptresultate, Analecta Orientalia*, Pontificio Instituto Biblico, 2, Roma.

LAMBERT, M.

1975 Recherches sur les réformes d'Urukagina, *OrNS*, 44.

前田 徹

1976 初期王朝時代末のエミに於ける運河工事に就いて, 『オリエント』, 19(2), 東京.

POWELL, M. A.

1981 Collations to M.V. Nikol'skiĭ, Dokumenty Khoziaistvennoĭ otchetnosti drevnejšei epokhi Khardei iz sobraniiia N.P. Likhachëva. Drevnosti Vostochnyia. Trudy Vostochnoi Kommissii Imperatorskago Moskovskago Obshchestva 3/II (1908), *ASJ* 3.

中原与茂九郎

1963 シュメール土地制度について—初期王朝時代まで—, 『人文』, 京都大学教養部, 9.

ROSENGARTEN, Y.

1960 *Le concept sumérien de consommation dans la vie économique et religieuse*, Paris.

SCHNEIDER, A.

1920 *Die Anfänge der Kulturwirtschaft : Die sumerische Tempelstadt, Plenge Staatswissenschaftliche Beiträge*, 4, Essen.

山本 茂

1974 シュメール都市国家ラガシュにおける土地制度研究への一序論, 『オリエント』, 16(2), 東京.

1979 シュメール都市国家時代最末期ラガシュにおける農耕年視点の確立, 『史林』 62(2).

1984 シュメール都市国家ラガシュにおける「玉葱畠」'ki-sum-ma'・「園」'kiriš'についての序論的研究, 『人文』, 京都府立大学学術報告, 36.